

教員生活の思い出

英語英文学科 名誉教授 山本健一

岐阜市立女子短期大学創立 70 周年へのお祝いの言葉として、34 年間に渡る教員生活の思い出をいくつか紹介させていただきます。

■1979 年、岐阜の短大に赴任して、研究室の窓から毎日、金華山の山並や長良川の水のきらめきを眺めながら、簡潔でイメージの際だったアメリカ詩に日本の俳句の様式を重ね合わせて、異文化間の表現の差異などについて考えていた。英語で表現された俳句、すなわち「**HAIKU**」(英語俳句)の存在とそのユニークな様式の可能性を知らされたのは、この頃だった。やがて短大の授業で英作文を担当することになり、「**HAIKU**」をやろうと決めた。英語英文学科の学生諸君に「書くこと」、「自己を表現すること」の苦しみと喜びを味わってほしかった。それ以後毎年、「全国学生俳句大会」に学生の俳句を応募していたが、1994 年度第 25 回全国学生俳句大会において、学生の一人が大賞(文部大臣奨励賞)を受賞した。

「透き通る海を抱きしめ空に抱かれ」

Hugging the transparent sea/ And embraced/ By the sea

創作的な要素を授業に取り入れることは難しい側面もあったが、「英語俳句」の授業をとってよかったという幾人かの学生の声を聴いて、意欲的な学生にとっては、教育効果が著しく高くなるという体験と達成感を、学生と分かち合うことができた。

■1992 年、アメリカ合衆国・オハイオ州シンシナティ市郊外に位置するトマス・モア大学と、また 2005 年からは、カリフォルニア州立大学サンマルコス校とも学術交流及び英語英文学科学生の海外語学研修の協定を結び、毎年約 30 名ほどの学生が海外英語演習に参加してきた。

学生たちの体験談の一部には、「英語圏の文化、風俗、習慣、人々に直接触れることができた」、「英語で話をする勇気が持てた」、「世界観が広がった」、「アメリカ人の物の見方、考え方が理解できるようになった」など、異文化に直接触れることで異文化理解の重要性を再認識するといった学生たちの異文化学習効果がうかがわれ、英語英文学科先生方の付き添いの苦労はあったが、この海外語学研修プログラムが学生たちに貴重な異文化体験をもたらしたと思われる。

■その他にも 1998 年度から、英語運用能力のレベルアップのための具体的な達成目標として、英検、TOEIC また情報技能などの検定試験受験を学生に奨励しており、各先生方の熱意と努力による教育支援もあり、短大レベルを超えた学習成果を達成することができたことは、今なお英語英文学科の伝統として受け継がれ、後輩学生たちの良き学習目標となっている。

34 年間に渡り本学で教育・研究に従事し、約 2000 名の学生と共に学園生活を送ることができたことは、我が人生の誇りであり、喜びです。これも学長さん、先生方、職員の皆さん、そして学生諸君の協力と支援があったおかげと感謝し、岐阜市立女子短期大学がこれからも永遠に発展し続けることを、心より願っています。